社協だより
2026年・秋号
NO. 140
ふくしのまち福岡
南区版



社会福祉法人福岡市社会福祉協議会
南区社協事務所（南区社会福祉協議会）
福岡市南区塩原3-25-1　南区役所別館1階
TEL：092-554-1039　FAX：092-557-4068
Eメール：minamiku@fukuoka-shakyo.or.jp



つながりの居場所「ふれあいサロン」の今とこれから

大楠校区　「ほのぼの倶楽部」～無理なく続けていくために～

大楠校区のふれあいサロン「ほのぼの倶楽部」では、地域の高齢者の皆さんが集まり、おしゃべりやレクリエーション等を楽しみながら交流しています。ボランティアとの会話も大切なひとときです。年に1回は子どもたちとの合同クリスマス会も開催し、世代を超えたつながりを育んでいます。

一方で、活動を支えるボランティアも高齢になり、今後の活動継続が課題となっています。代表の矢野氏は、「担い手のことを考えると心配もありますが、皆さんが集まって交流できるこの場所は大切にしたい」と話し、今の活動を大切にしながら、これからも無理なく続けていける形を考えています。

皆さんの笑顔とつながりを大切に、これからも地域の居場所として歩みを続けていきます。


▲身近な「きこえと補聴器」について熱心に学ぶ参加者

玉川校区　気軽に集まれる居場所「ふれあいサロン」

玉川校区の「ふれあいサロン」は、60歳以上の方を対象に地域でゆるやかにつながることを目的としています。毎月1回、玉川公民館の講堂で、歌や体操、ものづくり等の外部講師を招いて開催しています。

“多くの方に来てもらうためには口コミが大切”との想いから、参加者に名刺サイズの「ふれあいサロン」紹介カードと飴やタブレットを入れた小袋を配り、ご友人等地域住民に渡してもらうよう工夫しています。また、一人でも参加しやすく、だれもが楽しめる居場所づくりを目指しています。

今後は男性がもっと気楽に参加できるプログラムの検討や、運営側のボランティアも一緒に楽しめる場となるように、試行錯誤していきます。


▲身体を動かして元気に体操!

精神保健福祉ボランティアグループ「うさぎの耳」メンバー募集

「うさぎの耳」は、令和3年度の精神保健福祉ボランティア講座の修了生で結成したグループです。障がい者施設等での行事のお手伝いや、利用者の話し相手、レクリエーションの支援等、さまざまな場面で活動しています。

グループ名「うさぎの耳」には、「相手の話をよく聞き、一緒に考えていきたい」というメンバーの想いが込められています。それぞれのペースを大切にしながら、無理なく活動を続けています。

毎月、定例会を開催しています。お茶を飲みながら、気軽にお話ししませんか?まずは見学からでも大歓迎です。少しでも興味のある方は、南区社協までお問い合わせください。



▲「うさぎの耳」のメンバーの皆さん

日佐校区　子ども食堂を初開催! ～子どもの健やかな成長を願って～

日頃から南区内の子ども食堂へ新鮮な野菜や味噌等の食材を寄贈しているJA福岡市日佐管内組織組合員（以下、JA）が、初めて子ども食堂（JA日佐ふれあい食堂）を開催しました。



▲JAの会場で食事をとる子どもたち

当日は、組合員が作ったお米と、とれたての野菜をふんだんに使ったカレーライスとサラダが振る舞われ、子どもたちは楽しく食事をしました。食後は、くじ引きでお菓子や花火等のプレゼントもありました。

JAにとっても、食材を通じた支援だけでなく、実際に子どもたちと触れ合い、交流を深める貴重な機会となったようでした。

今後も南区社協では、地域のつながりを大切にしながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに向けた取組みを支援していきます。

長丘校区　いざという時、支え合える地域へ

長丘校区では、令和8年8月、平常時だけでなく災害時にも安心できる地域づくりのため、災害時に備える体制づくりについて考えるワークショップを開催しました。

ワークショップでは、各町ごとに要支援者がどこにいるのか、地図に落とし込んで確認する「見守りマップ」づくりや、災害時に地域で「誰がどのように声かけ・支援して、どこへ避難するのか」を要支援者ごとに記載する「個別避難計画」の作成を行ないました。

参加者同士で意見を出し合いながら、一人ひとりの計画を作成し、改めて要支援者の把握や、日頃から地域で声をかけ合い関係性を築くことの大切さについても確認しました。

参加者からは、「災害時の対応について、取組むべきことがより鮮明になった」「校区として町内会を超えた助け合いについても考えたい」といった声がありました。



▲見守りマップを作成している様子

この広報紙は共同募金配分金及び賛助会費を主な財源として作成しております。